

関中学校・石神井台小学校・関町北小学校

【研究主題】

なめらかなつながりを図るための小中一貫教育の工夫

小学生は、中学への進学に向けて新しい友達との出会いや部活動を楽しみにしている反面、新しい教科、定期考査、新しい人間関係づくりに不安を感じている。こうした現状を踏まえ、小学生が中学校進学後も安心、安定した学校生活が過ごせるように研究をすすめてきた。本年度は、以下の分科会に分かれて研究をすすめた。

- ①中学校で新しく学ぶ教科、英語・数学、古文や漢文を学ぶ機会が増え、小学生が不安を感じる教科に焦点を当て、学習指導上の課題や指導法を情報交換し、連携を深める教科分科会（国語・算数数学・外国語英語・道徳）
- ②小学校と中学校の諸活動の交流を情報交換し、授業や校外学習、特別活動等で、児童・生徒、教職員の交流を推進する交流分科会

【各分科会の研究内容・成果と課題】

教科分科会：国語部会

【研究内容】

語彙力の不足により、文章が読み取れないことへの課題改善として、語彙・読書・漢字の他に、新たに説明的文章の読解を課題改善カリキュラムに加え、読解力・語彙力の向上を目指す。

【成果】

語彙力の不足による文章を読み取りの不十分さという課題の改善に向けて、言葉にこだわった授業を展開した。これにより、1つ1つの言葉に注意して読み取ろうとする児童が増えた。また、今後の文法や修飾語、接続詞といった学習に対する共通理解が図れた。

【課題】

小学校で学んだことを中学校での学習に生かされていないことが課題として挙げられた。語彙・読書・漢字については継続しながら、中学校までつながるような学習内容の習熟を目指し、小学校における文法や修飾語、接続詞についての学習の充実を目指す。

教科分科会：算数・数学部会

【研究内容】

「正の数・負の数」の分配法則や、四則演習で計算方法や式の書き方を統一する。

合同条件や相似条件等、図形の学習について、条件の名称を統一し、条件の根拠も示しながら理解させる。対称な図形の学習内容を統一する。

【成果】

等号、不等号の意味を理解して立式する児童が増え、中学校での混乱がなくなった。また、ノートの書き方を統一したことで、計算ミスに気付ける児童が多くなった。名称を統一したことで、相似条件、合同条件を理解し、想起できる児童が増えた。

【課題】

苦手意識をもつ児童・生徒への指導法。さらに具体的に指導できる手立てを考えていく。相似条件・合同条件については、中学2年生まで間が空いてしまうことや、作図ではなく証明問題の学習内容になることで、想起させる指導の工夫が必要である。

教科分科会：外国語・英語部会

【研究内容】

英語でのコミュニケーションに消極的な児童・生徒が多いことが課題であることから、「聞く」「話す」に重点を置いた授業展開の研究。（クラスルームイングリッシュ・語彙）児童・生徒が「もっと聞きたい」「何を伝えているのだろう」と感じるような「聞きたい」という気持ちを芽生えさせる導入の工夫。（インフォメーションギャップ・必然性をもたせた課題）

【成果】

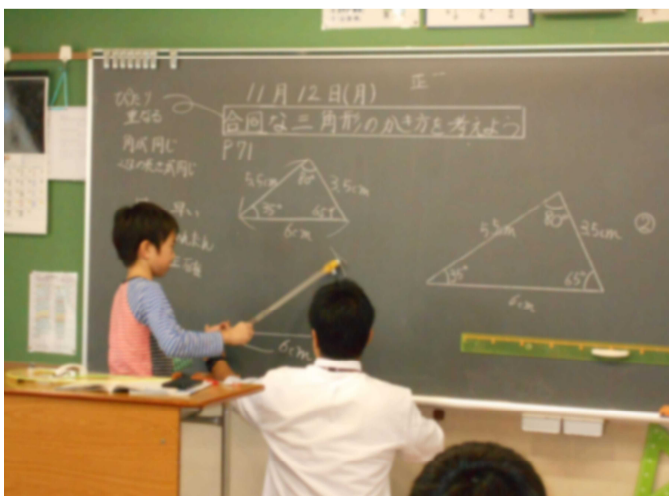
ゲームを取り入れた活動を設定し、英語表現を用いる必然性をもたせることで、楽しみながら意欲的に活動に参加したり、発表したりする児童が増えた。また、児童同士で教え合う様子も多く見られた。

【課題】

「話す」「聞く」に重点を置いた、外国語に親しめる授業作りを続けていくとともに、外国語の教科化に伴い、「読む」「書く」の指導の手立ても検討していきたい。



<国語科の授業風景>



<算数科の授業風景>



<外国語の授業風景>

教科分科会：道徳部会

【研究内容】

「特別の教科道徳」について部会を新設した。課題として、相手の気持ちを考えた言動や、当事者意識が低いことが挙げられた。そこで、「B 主として人とのかかわりに関すること」を小中共通で重点項目として取り組む。

【成果】

価値項目の B について研究をしていくという方向性を決定し、道徳の授業について話し合うことができた。考える道徳のための手立てを課題改善カリキュラムとして話し合っ作ることができた。

【課題】

課題改善カリキュラムを作成したが、道徳の授業で実践を行いながら、より良いものへと作り直していく必要がある。



<道徳の授業の様子>

交流分科会

【研究内容】

小・中学生の主体的な交流を図ると共に、継続可能な交流を実施し、検討する。

【成果】

「職場体験」「合同あいさつ運動」「海外派遣報告会」「ウインドアンサンブル部演奏会」「中学校教員による小学生への授業」「中学校訪問」など、様々な取組を実施することができた。

中学校教員による小学校図工の授業では、中学生の制作した作品を見て中学の学習に大きな期待をもつことができた。また、小学生による中学校訪問では、授業参観や生徒会による中学校紹介などを通して、進学に対する意識が変化し、中学校生活への不安が少し解消したり、意欲が高まったりした。

【課題】

新しい取組を模索したり授業改善を行ったりするために、3校の教員が話し合う時間を確保していくことが難しかった。今年度実施した交流については、来年度以降も継続して取り組む予定であるが、各校での日程調整が難しいため、限定的な取組とならないよう方策を考えていく必要がある。



<6年生対象、中学校教員による特別授業>

【今後の取組】

教科分科会

国語、算数・数学、外国語・英語、道徳の教科だけでなく、すべての教科について課題を挙げ、学習面においてのなめらかなつながりを目指す。

交流分科会

今後も継続して交流できるように、各校の担う部分についての話し合いを適宜もつように工夫する。